

2024年度教職員学校自己評価

評価項目	平均	本年度の成果と次年度の課題
Q1.建学の精神「捨我精進」や、校訓「明るく 清く 正しく 強く」を教職員が理解し、教育を行っている	3.4	・教職員間で、建学の精神についてのより一層の共通認識を持ったうえで、教育活動に取り組んでいく。
Q2.教育方針「知性と豊かな情操、品性を身につけ、健康でいきいきとした活力あふれる人材を育成する」を教職員が理解し、教育を行っている	3.3	
Q3.学校教育目標「個性を見つめ、伸ばし、一人ひとりの夢を実現する」を教職員が理解し、教育を行っている	3.5	
Q4.本年度重点努力目標である「自ら学ぶ習慣を身につけ、集団や社会の一員としてより良い人間関係や生活を築こうとする態度と実践力を育てる」に基づき、教科内で教育計画を立てて、授業を実施している	3.4	
Q5.教育課題について教職員間で情報交換を日常的によくしている	3.3	
Q6.ホームページは見やすく、本校の教育の特色や受験情報を的確に伝えている	3.6	
Q7.保護者に本校の教育や行事、生徒の様子等を的確に伝えている	3.6	
Q8.危機回避のための安全教育が徹底している	3.3	
Q9.生徒の質問や、疑問点については根気よく丁寧に指導している	3.9	・教職員研修において、いじめを題材にした講演を取り入れ、いじめの現状を学ぶ機会を設けた。 ・1 学期に行った授業アンケートをもとに、よりわかりやすい授業に向けて、授業研究に励む必要がある。
Q10.生徒の授業アンケートをもとに、日々の授業改善に努めている	3.8	
Q11.「social compass」は充実しており女子校としての特色となっている	3.3	
Q12.いじめ等、人権侵害事例が生じた時は、的確に取り組んでいる	3.4	
Q13.学校行事(文化祭、体育祭)は生徒の主体性も重視し、充実した取り組みとなっている	3.7	
Q14.学校行事(修学旅行)は、他校にはない特色ある取り組みとなっている	3.4	
Q15.情報モラルについての教育を特別活動等で組織的計画的に実施している	3.4	
Q16.教職員は特別支援教育について理解している	2.9	
Q17.本校の生徒会活動は活発である	3.3	
Q18.本校の部活動は活発である	4.3	
Q19.些細な生徒の変化について、係だけに任せせず、教職員間で情報交換をしながら組織的に取り組んでいる	3.1	・生徒の学校生活における情報共有を図っているが、機会指導の強化は必要である。 ・園田学園大学とは、進路イベントや探究学習などで連携をとって進めているが、より連携できる機会を模索して、生徒に対して大学という学びの場について理解できるように還元していく。
Q20.学校のきまりを守ることやあいさつ励行、正しい服装に関する指導を全教職員が日常的に行っている	2.5	
Q21.進路支援のために、的確な情報を生徒に提供するとともに、丁寧な面談を組織的に実施している	3.5	
Q22.園田学園大学との連携ができている	2.9	
Q23.生徒個々の学習状況や生活態度等について、保護者に対して情報を適切に伝え、学校と保護者との連携のもとで教育を進めている	3.6	
Q24.研修の結果を日々の授業や生徒指導に活用している	2.8	

